

東京国立博物館副館長を囲む

# 「国宝、日本の美をめぐる 東京国立博物館名品展」開催記念でい談



自分の名品〆を見つけて  
美術を気軽に楽しみたい

今秋、大分県立美術館では、東京国立博物館所蔵の名品が並ぶ大規模な展覧会が開催されます。これを記念して3月17日に同館副館長と県民代表者とのい談が催され、同展の魅力や美術館の楽しみ方など、ユーモアを交えながらの楽しい対話が繰り広げられました。



公益財団法人 大分県芸術文化スポーツ振興財団 理事長 佐藤 一  
大分県立 芸術緑丘高等学校 美術科3年生(当時) 小方樹さん  
東京国立博物館 副館長 井上 洋一さん  
由布院温泉観光協会 会長 桑野和泉さん

## 国宝や重要文化財も多数 まれに見る名品揃い

今年10～11月に開催される「国民文化祭・おおい2018」全国障害者芸術・文化祭おおい大会の期間中、大分県立美術館では「国宝、日本の美をめぐる 東京国立博物館名品展」が開催されます。

なかなか目にする機会のない国宝や重要文化財も数多く揃ったこの展覧会の開催を記念して、同副館長・井上洋一さんを囲むい談が行われました。県民代表として登壇したのは、由布院温泉観光協会会長の桑野和泉さんと、大分県立芸術緑丘高等学校 美術科3年生の小方樹さん(当時)。会場は幅広い

世代の聴衆で埋まりました。

主催者の公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団の佐藤 一理事長(元ユネスコ日本政府代表部特命全権大使)のあいさつ後、井上副館長からい談に先立ち、今回の展覧会の見どころや主な作品を映像と共に紹介。色鮮やかな「地獄草紙」(国宝)、古筆「三色紙」の中の二種が揃うことは希少という伝紀貫之(きのつらゆき)筆の「寸松庵(すんしやあん)色紙」重要文化財と、伝小野道風(ののどうふう)筆の「継(つぎ)色紙」(重要文化財)、伊藤若冲の名作「松梅群鶏図屏風」、大分ゆかりの雪舟の自筆とされる「四季花鳥図」(重要文化財)など、次々映し出される作品の映像と井上さんならではのわかりやすい解説に、「ぜひ実物を見てみたい!」と気持ち揺さぶられます。ジョーク満載の軽快なトークに魅了され、美術がとて身近に感じられた講演でした。同展には縄文から江戸時代まで、各時代を代表する選りすぐりの名品が揃い、その中には国宝3件、重要文化財13件が含まれているとのこと。展覧会への期待が大いに高まったところで、い談へと移ります。

## 芸術は心の栄養 美術館の普段使いを楽しもう

話題はまず、「トーク」の愛称で親

しまれている東京国立博物館の名品、長谷川等伯の「松林図屏風」(国宝)などが大分県立美術館(OPAM)の開催記念展に展示されたことから。記念展を見に行ったという桑野さんは、「近くにOPAMができて、そこで見られたことがとてもうれしかった。やはり実際に見た感動は記憶に残るもの」と話します。

「OPAMはあなたにとってどんな存在?」という井上さんの質問に、桑野さんが「日常からの距離感が持てる空間」と言うと、小方さんは「近くに行つたいでにちょっと一人で立ち寄ることが多い。行けば何かあるというワクワク感があつて、すごく楽しいところ。すかさず井上さんが「デートもOPAMで?」とつつこみ、会場が笑いに包まれる一幕も。「彼女をデートに誘ったり、気分のいい時、悪い時、買い物に来たついでにちょっと立ち寄れる。美術館がそんな存在になつてほしい。私は、美術館博物館の普段使い、といつも言っています」と井上さん。美術館の普段使い。ぜひ取り入れて、心豊かな日常を過ごしたいですね。

「では、芸術文化の持つ力って何だろう?」というところに話が及びます。「私にはおいしいものを食べるのが好きだけど、おいしいものでは満たされない。年を重ねるほど、満たされるのは芸術文化だなと感じます」と桑野さん。高校で美術を学んでいる小方さんが、「僕にとって美術は、自分が生きているこ



とを認めてくれる存在」と言うのと、井上さんは「なんだか哲学者みたいだけど(笑)、それはとつても重要なこと。人間はパンがなければ生きていけないが、芸術文化がなければ豊かな心は絶対に育たない。芸術は心の栄養だと思っ」と結びました。

## 名品を楽しむと同時に その内にあるものを感じて

続いて井上さんは、数々の戦禍に巻き込まれて甚大な被害を受けたアフガニスタンの国立博物館で、勇気ある博物館員たちが、秘密裏のうちに貴重なシルクロードの文化財を運び出し、守り抜いた話を紹介します。トールハクは、この守り抜かれたシルクロードの秘宝を披露する国際巡回展を、一昨年に開催しています。

砲撃を受けて無残な姿になった遺跡や博物館の映像が映され、最後に映し出されたのが、修復されたアフガニスタン国立博物館と、その入口に掲げられた「自らの文化が生き続ける限り、その国は生きながらえる」の一文。ずしりと心に響く言葉でした。「この言葉こそが芸術文化の根源。その思いから今回の展覧会を企画させていただきました」と井上さん。そして「今回の展覧会では、名品を楽しんでいたのと同時に、その内にあるものも感じてほしい」と語りかけました。

「先ほどの講演をうかがって、あれも見たい、これも見たい、つて思いました。オール大分、オール九州に伝えて、ぜひ多くの人に来てもらいたい」とPRにも思いが及ぶのは、由布院温泉観光協会会長を務める桑野さんならでは。「どうやったら若者たちも来てくれるだろうか」という井上さんの問いに、「僕たち美術科の学生だけ

でなく、普通科の学生も巻き込むよくな、例えばCMに出るなどの企画を考えて、スマホで情報を拡散しては？」と小方さん。桑野さんからは「大分は今、海外からのお客さんも多いので、OPAMで日本に出合ってもらうチャンス」との声も出ました。

## 1点1点すべてが名品 自分の名品を見つけよう

井上さんは、「トールハクは今年146歳。日本美術の殿堂といわれる本館は昭和13年に建てられたもので、部分的にリニューアルはしているものの、ケースや照明などはちよつと古い。それに比べてOPAMは3歳。当時トップクラスのケースや照明を備えられたと聞いているので、同じ作品がどう違つて見えるのか、実は私が一番楽しみなんです。悔しいけれど、おそらくOPAMの方が良く見えるはず」と言つて、会場の笑いを誘いました。

てい談の後、活発な質疑応答があり、最後に井上さんから「タイトルは『東京国立博物館名品展』ですが、なにも国宝や重要文化財だけが名品じゃない。1点1点すべてが名品です。皆さんそれぞれが、自分の名品を見つけてほしい」とのメッセージ。桑野さんからは「秋はOPAMへ行くこつ、というこつでみんながつながつていけるといいですね」、小方さんからは「今日ここに来られたこつで、これからもつと美術館を楽しめると思っ」と感想が述べられました。

気さくな人柄の井上副館長からしばしばジョークも飛び出し、和やかな雰囲気の中、20分の小講演と50分のてい談があつたという間に終了。心豊かになれるひとときでした。今秋の展覧会がますます楽しみみです。

## Data

第33回国民文化祭・おおいた2018  
第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会

## 国宝、日本の美をめぐる 東京国立博物館名品展

【日時】11/2(金)～25(日) 【会場】大分県立美術館 3階 コレクション展示室 【料金】一般800(600)円、大学生・高校生500(300)円※( )内は20名以上の団体料金 【問】大分県立美術館 Tel:097-533-4500



《地獄草紙》平安時代(12世紀) 国宝 東京国立博物館所蔵 Image:TNM Image Archives



伊藤若冲《松梅群鶏図屏風》江戸時代(18世紀) 東京国立博物館所蔵 Image:TNM Image Archives



東洲齋写楽  
《市川鯨蔵の竹村定之進》寛政6年(1794)  
重要文化財 東京国立博物館所蔵  
Image:TNM Image Archives

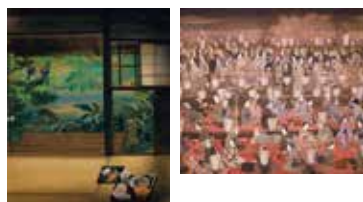
## 「第33回国民文化祭・おおいた2018」 「第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会」期間中の 特別企画

### 日本モダンの精華 京都国立近代美術館コレクション

京都国立近代美術館の所蔵品の中から、日本画の村上華岳や徳岡神泉、洋画の梅原龍三郎、陶芸の河井寛次郎ら、京都ゆかりの作家たちの秀作を一堂に展示。中でも福田平八郎の作品は、臼杵市出身の実業家・故首藤定氏旧蔵のいわゆる「首藤コレクション」で占められており、名作「花菖蒲」をはじめ平八郎壮年期の作品が多数入り展示となる予定です。



【日時】9/28(金)～10/21(日) 【会場】大分県立美術館 3階 コレクション展示室 【料金】一般800(600)円、大学生・高校生500(300)円※( )内は20名以上の団体料金 【問】大分県立美術館 Tel:097-533-4500



左:竹内栖鳳《秋興》1927年 京都国立近代美術館蔵  
中:川端龍子《佳人好在》1925年 京都国立近代美術館蔵  
右:村上華岳《夜桜之図》1913年 京都国立近代美術館蔵

### 「海と宙の未来」展

JAXA(宇宙航空研究開発機構)、JAMSTEC(海洋研究開発機構)の全面的な協力を得て、県内では接する機会がほとんどない地球科学系の資料や映像、さらにはロケットや深海探査艇の大型模型などを展示。両機構が実施してきた海洋および宇宙探査の輝かしい成果を紹介するとともに、宇宙開発や深海探査、アストロバイオロジー(=宇宙生物学)の今後を展望します。期間中には、有人潜水調査船「しんかい6500」の母船であり、「しんかい6500」とともに世界の海洋で深海調査を行う支援母船「よこすか」が大分県に一時寄港し、一般公開される予定です。

【日時】10/2(火)～11/25(日) 【会場】大分県立美術館 1階 アトリウム/特設会場3階 コレクション展示室 【料金】無料 【問】大分県立美術館 Tel:097-533-4500



上:H-IIロケットによる宇宙ステーション補給機「こうのとり」打上げ ©JAXA  
中:有人潜水調査船「しんかい6500」  
下:支援母船「よこすか」 ©JAMSTEC

### おおいた美術散歩 OPAM & 豊の国

県内市町村それぞれの地域に特徴的なアート事情を、出身作家の作品や資料等で紹介することで、「おおいたの美術」の魅力をひろく発信します。



田能村竹田《清涼無垢画帖》1835年



生野祥雲齋《木瓜形菱花紋透盛盃》1942年

【日時】10/2(火)～11/25(日) 【会場】大分県立美術館 3階 展示室B 【料金】一般500(300)円、大学生・高校生400(200)円※( )内は20名以上の団体料金 【問】大分県立美術館 Tel:097-533-4500